

射水市スポーツ推進審議会議事録

1 会 議

期 日：令和4年8月9日（火）13：30～

場 所：射水市役所会議室401

出席者：

- （委員）川腰会長、古城副会長、大森委員、片岡委員、清水委員、
竹林委員、開委員、藤川委員、星野委員、松嶋委員
- （事務局）金谷教育長、久々江教育委員会事務局長、
塩谷次長（生涯学習・スポーツ課長）、
北村班長（生涯学習・スポーツ課スポーツ施設整備班）
安元課長補佐（学校教育課）
鳥本課長補佐（生涯学習・スポーツ課スポーツ推進係）
荒木主査、谷主任、岡本主事（生涯学習・スポーツ課スポーツ推進係）

2 概 要

- ・開会のあいさつ（金谷教育長）
- ・委員と事務局の紹介
- ・会長及び副会長の互選
川腰委員が会長、古城委員が副会長に互選される。
- ・議事進行（川腰会長）

・報告事項

- （1）射水市スポーツ推進計画について
 - ・令和4年度主要事業について
 - ・令和3年度主要事業の実績について
 - ・施策目標達成のために参考とする指標について

【委員からの意見等】

（委員）

令和3年度の市スポーツ少年団の育成事業についてスポーツセミナーを開催し、メンタルコーチングについて学んだとあるが、講師は誰が務めたのか。

（事務局）

石黒葉月先生である。

（委員）

スポーツの世界ではメンタルは大事であるのでとても良い取り組みだと思う。講師の先生を聞いて納得した。

(委員)

市内5つの総合型地域スポーツクラブの令和3年度末の会員数が令和2年度末と比較して増加したと説明されたが、コロナの状況下において増えたのは意外であり、増えた要因について伺う。

(事務局)

令和2年度は会員の募集を止めていたり、教室活動を中止していたりしていたスポーツクラブがあったが、令和3年度からは再開していたため会員数が増加したと考えられる。

(委員)

オリバースポーツフィールド射水を市内中学校が大会で利用する場合は全額減免していただけるのが非常に助かる。来年度以降もぜひ続けていただきたい。また、令和6年度には全中大会の相撲競技が本市で開催されるが相撲人口が少ない。「みるスポーツ」の機会づくりの推進の方策があるが、市内で活躍するアイシン軽金属相撲部があり、小学生のうちから相撲に興味を持てるようにご協力願う。

(委員)

元旦マラソンについて詳細は決まっているのか。例年大門地区では鍋を振る舞っているが、コロナの感染症対策はどのように考えているのか。

(事務局)

現時点で、体育協会と具体的な話をしていない。飲食について、感染のリスクに関して不明な点も多いことから、まずはマラソン大会の開催に重きを置き体育協会と話を進めていきたい。

(委員)

各中学校の運動部に対し、指導者(スポーツエキスパート)26名を派遣したと説明されたがこの人数は多いのか。またどの競技に配置されているか把握しているのか。

(事務局)

詳細について後ほど資料をお渡しする。

・報告事項

(2) 公共(スポーツ)施設の見直し状況について

【委員からの意見等】

(委員)

公共施設再編方針において体育館を2館体制にすると掲げているが、現状について伺う。

(事務局)

計画でお示ししているところではあるが、地域部活動の移行をふまえると急いではない現状である。状況を見ながら慎重に進めていく。

(委員)

難しい問題である。現在利用されている方がどこへ行くのかも踏まえ慎重に取り組むべきである。来年度までのスポーツ推進計画に示しているのであれば資料の見直し状況について進んでいない旨の記載があると誤解がないと思う。

ところで、地域部活動では公共施設、学校の体育館のどちらを利用するのか。

(事務局)

国では、地域部活動について公共施設や学校など今ある施設を使うことを前提としている。よって、公共施設について地域部活動の移行のために新たに建設することや再編計画のあるものを残すということではない。

(委員)

小杉体育館や大門総合体育館など合併前から愛されており、どの体育館も地域に根差した利用しやすい施設である。地域住民のスポーツ振興の機会や活動場所を守るため、整えながら再編を図り、柔軟に対応していただきたい。

(事務局)

令和3年3月に公共施設再編方針に基づき個別施設計画を作成した。令和5年度までにどのように機能集約していくのか、民間参入の可能性はあるのか等について結論を出すため、現在は調査・検討していく期間となっている。委員の皆様の意見も踏まえながら調査していきたい。

(会長)

難しい問題である。見直し方針について反対の声があると聞いているが前向きな姿勢で対応してほしい。

・報告事項

(3) 休日の学校部活動の地域移行のモデル事業の実施について

【委員からの意見等】

(委員)

中学生の参加意向の結果について伺う。

(事務局)

バスケットボールが69%、剣道が95%、柔道が83%参加意向を示している。

(委員)

移動手段はどうするのか。交通費は市が負担するのか。

(事務局)

今回実施しているのは休日の部活動なので、基本的には保護者の責任で移動してもらうことをお願いしている。

(委員)

本格的な移行は来年度になるのか。

(事務局)

ほかの競技についても順次モデル事業を行い、段階的な移行を考えている。よって、

令和7年度まではモデル期間としている。

(委員)

参加意向の結果は、指導者の力量が大きく影響するのではないか。指導者の研修など考えているか。今後の展開について伺う。

(事務局)

参加意向のアンケートの時点では、指導者が決まっていないため、生徒の参加意向の結果に直接的な影響はないと考える。また、個人競技は移行に賛成の声が多いが、チーム力が必要な団体競技では移行が難しい傾向がみられ、今後の課題である。

(委員)

指導者が不足している一方で、スポーツを通して子供たちを育成していく場が必要である。合同チームの編成は難しい面も多いが、進捗があればまた教えていただきたい。

(委員)

指導者について、「各競技団体から複数名を登録し派遣」とあるが、この競技団体とは何を指しているのか。

(事務局)

今回のモデル競技に関しては、バスケットボールは射水市バスケットボール協会、剣道は射水市剣道連盟、柔道は射水市柔道連盟にお願いしている。しかし、ヨットなど一部の競技では市協会では受け入れができないと言われているため、県や実業団にお願いすることもあるかと考えている。

(委員)

流動的な面が多い事業だが、子供たちに不利益を与えてはいけない。私は小杉体育館利用者として、昼は高齢者、夜は子供たちなど若い人たちが利用しているのを見ている。先ほどの公共施設の再編の話と踏まえると、地域部活動と生涯スポーツをからめていくことはできないのか。各競技団体だけで部活動の地域移行を進めていくのではなく、総合型地域スポーツクラブにも部活動の地域移行に携わってもらおうとよいと思う。

・報告事項

(4) その他 スポーツに関する意識調査の実施について

【委員からの意見等】

意見なし